

八月鹿ノ台教室誌上句会 優秀句

お題「えらいこっちゃ」(連記) 播本英二選	強風にカツラが空を舞っている	ちさと
雨コロナ地震不倫のご懐妊	喜寿となりやり直したい言われても	乃り子
晩年もえらいこっちゃが口ぐせに	夏が来て消えたくびれを思い知る	充
外出るな旅行に出るとご親切	偉そうな父の遺言誤字脱字	千 楽
中止やでえらいこっちゃの阿波踊り	どしゃぶりだえらいこっちゃの裏の川	幸 男
昨夜の彼がコロナ入院した知らせ	親知らぬ結婚決めて大あわて	義 雄
テレワークそのまま会社倒産だ	結婚式コロナで延期お腹に子	春 代
タイマーをかけたつもり炊飯器	秀 目がさめて息もできない瞬間がある	登 美
軸 ATM暗証エラー二度続き	英 二	えいじ
お題「医者」 原広子選	孫のよな錯覚になる医者が増え	幸 男
ヤブ医者のおクダミを摘む庭の隅	なにげない医者の言葉にひっかかる	よう子
付き添いの妻が問診みな答え	子の意志を聞かず敷かれた医者の道	アキラ
不摂生命はほしい医者泣かせ	どの医者もめまい治せずあの世まで	乃り子
かけ出し医師よりもベテラン看護師	女医さんも白衣を脱げばおばちゃんに	充
腕よりも話し上手に選ぶ医者	三分を医者のペースで寄り切られ	春 代
秀 医者であり坊主でもある二刀流	軸 医学生稼ぎ始めりや嫁のもの	千 楽
お題「泳ぐ」 奥村義雄選	手と足を使わず蛇の自由型	幸 男
夢捨てて住めば気楽な金魚鉢	辞書の海語彙を探して溺れてる	義 雄
泳ぐには浮き世の波が高すぎる	自己殺しうまく泳いで今がある	宏 樹
泳げないでも世の中はスイスイと	海水浴今年の浜辺は者間距離	よう子
目が泳ぎ上手な嘘もすぐばれる		哲 子

ちさと
アキラ
アキラ
よう子
哲 子
充
登 美
英 二

突然の訃報が届き目が泳ぐ
ランダムに浮世を泳ぎ野に下る
スイスイと社内を泳ぐ二世組
秀 不意つかれ証拠写真に目が泳ぐ
軸 のんびりと老春の海泳ぐ日日

登 美
正 清
千 楽
哲 子
義 雄

自由吟 勝部乃り子選
手のひらに乗せてはみ出すだんな様
二人して並んで見てる違う空
何で生きてるの良いいことがあるかも
施設の母に涙ぐむ日と笑う日と
変わりばえせぬ通帳の熱帯夜
五十年連れ添ったのに他人顔
フェロモンが匂い菩薩が唾をのむ
円満の秘訣は会話しないこと
在宅介護語り合う刻大切に
二場所ぶり静かな拍手熱い土
カタカナを混ぜて煙巻く専門家
秀 お別れの余情残して傘たたむ
軸 静と動ハーフハーフで喜寿迎え

ちさと
広 子
えいじ
義 雄
ちさと
哲 子
正 清
宏 樹
よう子
アキラ
乃り子

自由吟 澤山よう子選
夏空に私映えます百日紅
自分史に改ざん無しと胸を張る
目も耳も悪くなったが勘さえる
手のひらに乗せてはみ出すだんな様
五十年連れ添ったのに他人顔
変わりばえせぬ通帳の熱帯夜
近ごろは広い公園ひとり占め
つりしのぶチリリンと涼を呼ぶ
円満の秘訣は会話しないこと
許しませんぞ国家予算の無駄不正
カタカナを混ぜて煙巻く専門家
秀 一つの世もわざわざい招く金と口
軸 お別れの余情残して傘たたむ

充
義 雄
宏 樹
ちさと
哲 子
ちさと
えいじ
登 美
宏 樹
アキラ
アキラ
登 美
よう子

九月誌上句会 投句 九月十日 各二句

「夜明け」杉本ミノル選 「包む」水間充選
「時代」(連記) 川崎ちさと選

自由吟 (共選) 坪田登美選 阿部俊八選

*メール又は封書 アキラ迄

*書式・用紙は自由、お題・柳号記入を

◎封書の場合は楷書で明瞭にお願いします